

国語科学習指導案

生徒 第3学年B組 男子22名 女子19名 計41名
指導者 教諭 三津橋 ゆかり

I 題材名『最後の一句』(森 鷗外) 教育出版3年

II 題材について

この小説は、森鷗外が「一話一言」(江戸時代)の実話を基に書いた作品であるが、最後の一句のところに作者森鷗外の創作がある。そこで、この一句が出てくるまでのいちの思いや考え、この一句に動揺を示した役人側の事情などをしっかりとらえさせたい。また、それに対する自分の考えを持たせたい。なお、この作品の文体が生徒にとってなじみがないだけに何度も丁寧に音読させ、言葉の意味を確認させながら、内容理解をうながしたい。

この題材は時代設定が江戸であり、前回学習した「ウミガメと少年」の背景となっている時代よりさらにさかのぼっているため、その当時(小説の時代)の人間の生き方や社会を考察することができる作品として、価値を見出している。さらに次に学習する魯迅の「故郷」で、中国の社会や中国人の生き方との比較をさせたいと考えている。

III 題材の指導目標

- (1) 小説を読んで、当時(江戸)の人間や社会について考え、自分の意見を持たせる。【読むことエ】
- (2) 小説の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容を理解させる。【読むことイ】
- (3) これまで学習した作品と比較しながら、構成の仕方や展開、表現の仕方について評価させる。
【読むことウ】
- (4) 小説を何度も繰り返して音読し、内容を理解して、作品を批評しようとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
- (5) 語句の意味に注意して読むことができる。 【言語についての知識・理解・技能イ(イ)】

IV 本題材における言語活動

「最後の一句」を読んで、批評する。 【解釈・説明】 【評価・論述】

V 題材の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
・小説を読み、展開や表現の仕方を評価して自分の考えを深めようとしている。	・小説を読んで、批評するために場面や登場人物の設定の仕方をとらえて、文章全体の理解を深めている。(イ) ・他の小説と読み比べて、構成や展開、表現の仕方の違いに気づき、文章の形式の特徴や効果について評価している。(ウ) ・小説を読んで、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間や社会について自分の意見を持っている。(エ)	・小説が書かれた時代の言葉の意味や使われ方に着目し、時間の経過による言葉の変化に注意して読んでいる。(イ(ア)) ・文章に用いられている漢字を正しく読んでいる。(ウ(ア))

VI 指導と評価の計画

	指導目標	主な学習活動	時数	言語活動系統表との関連
最後の一句 (5)	①小説全体を読んで、登場人物や場面のおおよそを理解しようとしている。	○学習の見通しをもつ。 ○作品を通読する。 ・作品に出てくるエピソードをもとに、登場人物や場面の設定を確認する。	1	
	②当時の難しい言葉を文脈で想像させ、内容を理解させる。	○場面ごとに読んで、話の内容を理解し、作中人物の行動や心理を確かめる。 ・太郎兵衛が罪を得てからの家族の様子を読み取る。 ・桂屋太郎兵衛が死罪にされることになったいきさつを確かめる。	3	【解釈・説明】 【評価・論述】
	③太郎兵衛の罪と家族の様子場面を何度も読んで、話の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえさせる。 ④いちやその他の人々の行動や考えを読み取らせる。	・いちが父親を助けるために行った方法を読み取る。 ・いちがどのように考えて行動したのかを確かめる。 ・佐佐が願い書を受け、大人の入知恵ではないかと疑った場面を読み取る。 ・女房といち以外のこどもたちの尋問の様子を読み取る。		
	⑤いちや佐佐の思いを想像させ、自分の考えを持たせる。	・いちへの尋問の場面を読み取る。(本時)	本時 2/3	
	⑥使われている語句に注目し、表現の違いについて考えさせる。			
	⑦佐佐の感想から当時の人間や社会について考えさせ、自分の意見を持たせる。	・子供たちを帰したあとの佐佐の感想と作者の解説を読み取る。		
	⑧文章を何度も読んで、表現の特徴を、これまで学習した作品と比較しながら評価し、文章にまとめる。	○表現の仕方の特徴について、確かめる。 ・事実そのものを正確・簡潔に書いている部分や擬声語・擬態語など感覚的表現が非常に少ないことを確認する。		【解釈・説明】 【評価・論述】
	⑨「いち」の家庭と生徒自身の家庭を比較させ、当時の人間や社会について考え、自分の考えを持たせる。	○今の自分たちの生活といちの生活の相違点を考え、社会や生き方を考える。	1	

観点	指導目標	評価方法	Aのキーワード	評価規準B	Cへの手だて
関心 意欲 態度	① ⑨	観察 ノート	作品に描かれている人間と社会について、自分の考えをもち、 <u>表現しよう</u> としている。	作品に描かれている人間と社会について自分の考えを持つようとしている。	具体的な登場人物の描かれている部分を指示して考えさせる。
読む 能力	③ ④ ⑤ ⑦ ⑧	観察 ノート ノート	作品の理解と音読との間を <u>行き来しながら</u> 活動している。	人物の心情を音読で表現しようとしている。 ----- 人物の心情を指定された条件などで答えようとしている。	どんな心情をどう音読したらよいか考えさせる。
			人物を描写する語句や表現を <u>根拠</u> として	人物を描写する語句や表現に着目し、登場人物の状況や心情を読み取っている。	具体的な人物を取り上げて、何がどのように思っているのかを考えさせる。
言語	② ⑥	ノート	国語辞典を <u>自主的に活用</u> して	語感を磨き語彙を豊かにしている。	注意する語句を指示し、文脈上の意味や一語一語のもつ語感を確かめさせる。

Ⅶ 生徒の実態について

3年生の「読むこと」での物語・小説は「ウミガメと少年」につづき、2作品目である。前回の「ウミガメと少年」では、3年生の「読むこと」の目標である「物語の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容を理解する【読むことイ】と「語句の効果的な使い方など表現上の工夫を考えて読む【読むことウ】」「これまで学習した作品などと構成の仕方や展開、表現の仕方など比較して読む【読むことエ】」について、ワークシートを中心に学習の見通しを持ちながら、進めていった。その結果、目標イとウについてはほとんどの生徒が達成することができた。しかし、エについては半分ぐらいの生徒が不十分であった。

そこで、今回の小説では、エの指導事項を中心に前回学習した「ウミガメと少年」の読み方を活用させながら、学習を展開したいと考える。

また、自分が考えなかった他の人の意見を聞くことを好み、自分の考えを深めているので、今回もそれぞれの考えを発表させ、交流を図っていきたい。

Ⅷ 本時案

1 題材 「最後の一句」

2 学習目標

- ・いちや佐佐の思いを想像し、表現しようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- ・いちや佐佐の思いを想像し、自分の考えを持つことができる。 【読むこと】
- ・使われている語句に注目し、表現の違いについて考えることができる。

【言語に関する知識・理解・技能】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と(評価方法)
<p>○課題1 「お上のいうことにはまちがいはございませんまいから。」 このときのいちが佐佐にどんな思いを伝えようとしたのか。</p> <p>○いちが呼ばれた場面の教師の音読を聞く。</p> <p>○「言い足した」「言った」ではどこがどのように違うだろうか？思いを想像して、何度も声を出して読んでみる。</p> <p>○ペアになって、思いを読みで表現し合う。</p> <p>○ノートにいちの思いを書く。</p> <p>○考えを発表する。</p> <p>○教師の音読を聞く。</p>	<p>◆課題を提示した上で、教師の音読をきかせる。</p> <p>○内容を確認の意味で音読させる。</p> <p>◆「言い足した」「言った」の違い言葉の違いだけではなく、いちが佐佐に伝えようとしたことを考えさせる。</p> <p>◆机間巡視して、個々の読み表現を見取り、評価をする。</p> <p>◆音読を繰り返すことで内容を理解させる。</p> <p>○いちの思いを3行程度でノートに書く。</p> <p>◆声を出して読んだ際に、どんな思いを表現しようとしたのか、ノートに書かせて確認させる。</p> <p>○それぞれの考えを発表させ、自分に足りない内容は違う色のペンで書き加えさせる。</p> <p>○もう一度、続きを音読し、課題2を確認する。</p>	<p>○人物を描写する語句や表現に着目しようとしている。【国語への関心・意欲・態度】(観察)</p> <p>○いちの思いを想像し、いちが伝えようとしていることを表現しようとしている。【読むこと】(観察)</p>
<p>○課題2 「いちの言葉を聞いて佐佐はどんなことを思ったのか、ノートに5行程度で書いてみる。」</p> <p>○ノートに答えを書く。</p> <p>○ノートに書いた答えを発表する。(発表を聞いて自分にはない考えはノートにメモする)</p> <p>○次時の学習内容を知る。</p>	<p>◆ノートに行数を指示して書かせる。 「佐佐の顔には、不意打ちにあったような、驚愕の色が見えたが、それはすぐに消えて、険しくなった目が、いちの面に注がれた。」この時の佐佐の思いを想像して書かせる。</p> <p>いちの堂々とした様子に注目させ、アドバイスする。</p> <p>◆机間中に、発表者を内容ごとにグループ化しておき、発表の指名計画に生かす。</p> <p>○クラスの仲間のよい表現の仕方などを多く取り上げ、メモさせる。</p>	<p>○行間を読み、佐佐の思いを想像し、指定された行数で表現しようとしている。 【読む能力】(観察・ノート)</p> <p>○作品に描かれている人間と社会について考えようとしている。【国語への関心・意欲・態度】・【読む能力】</p>

